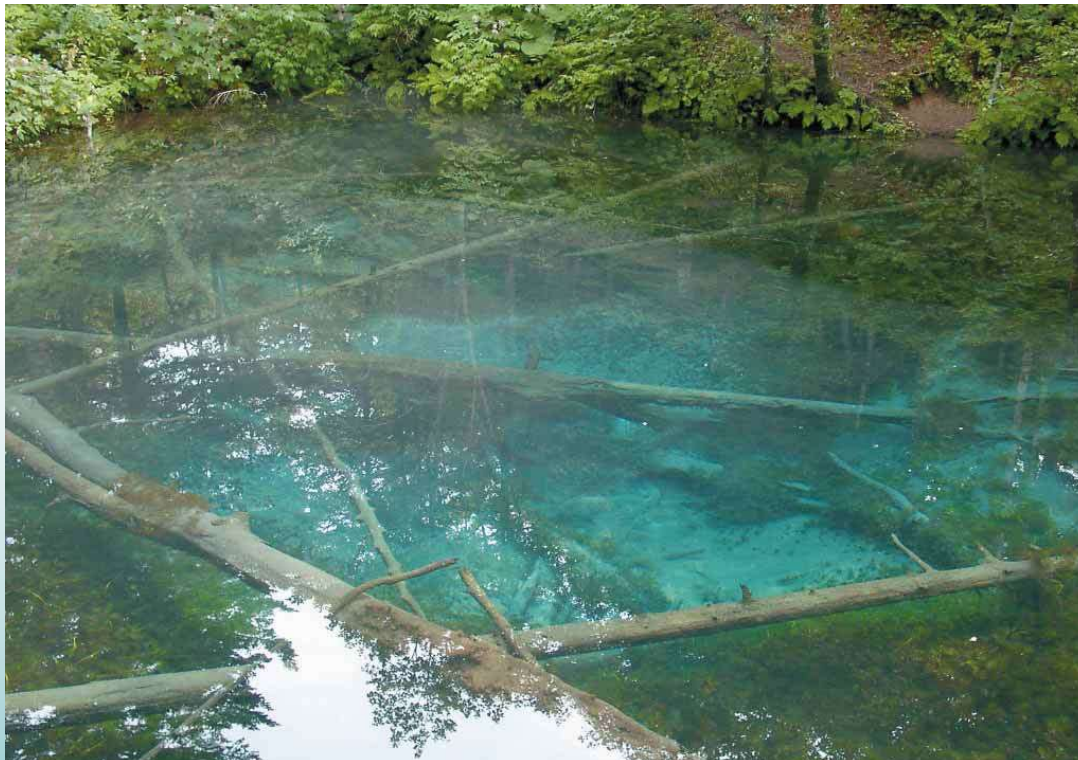


五十五万石

近畿税理士会和歌山支部

発行

和歌山市湊通丁北1丁目1-3
TEL.426-3600 FAX.424-1474



「神の子池」(北海道清里町)

抜群の透明度を誇る“神の湖”摩周湖から、周囲わずか220mのこの池に1日あたり約12,000tもの水が地下を通過して湧出している。

冬でも凍ることのないその神秘的な青は見る者の心を魅了する。まさに“神の子”の池である。

目次

年頭ごあいさつ	2	太陽半径	5
新年のごあいさつ	2	48歳「年男」のマニアック健康法	5
六回目の年男	3	支部行事風景	7
還暦に当時のニュースを読む	3	新入会員等紹介	8
「還暦年男雑感」	4	会員報告	8

年頭ごあいさつ



和歌山支部長

西岡 義高

皆様 あけましておめでとうございます。
日頃は会務運営にご協力戴き有難うございます。
本年も宜しくお願い致します。

年が明ければすぐに年末調整合計表提出、所得税・消費税の確定申告、3月決算法人の確定申告と会計事務所にとって超繁忙期となり、ほっと一息つけばもう6月と毎年同じ事の繰り返して、約40年自分ながら進歩のない人生を過ごしてきたと反省するばかりです。

私事はさておき、毎年の事ではありますが2月から3月15日迄、地区納税相談所等で会員先生方には時間的・労力的に大変なご尽力をおかけするわけではありますが、宜しくご協力の程お願いします。

本年は我々税理士にとって、大変革の時代に向けての1年であるように思います。消費税改正による小規模事業者への対応、税理士会規定改定での年間36時間の義務研修、これから導入される電子申告への取組み等々、時間が幾らあっても足りないと思うばかりです。しかし物は考えようで、これらは全て我々の業務が拡大する予兆と思えば大変有難い事で、ファイトをもって進もうと私自身は元気を取り戻すのであります。

気がつくままに述べて参りましたが、終わりに会員先生の本年もご健勝で、業務の益々のご隆盛を祈念して年頭のご挨拶と致します。



新年のごあいさつ



和歌山税務署長

田中 祥介

新年あけましておめでとうございます。

平成十六年の年頭に当たり、近畿税理士会和歌山支部の諸先生方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、税務行政の円滑な執行に対しまして、深いご理解と多大なるご協力をいただき誠にありがとうございます。紙面をお借りして心から厚くお礼申し上げます。

さて、私どもの執行する税務行政は、納税者たる国民の皆様から負託されているものであります。こうした観点から、申告納税制度の下で、私たちは、納税者の皆様のために、いわゆる顧客満足度を念頭に置きながら、税務情報の提供をはじめ様々なサービスをできるだけ提供するなど説明責任を果たすよう最大限の努力をしていく必要があると考えております。

ところで、最近の我が国経済の状況は、景気の低迷感が依然として拭い去れない状況にあり他方では、経済グローバル化、高度情報化の伸展、行政の更なる透明性の要請等、大きく変化しております。

こうした中、電子政府実現の一環として、納税者利便の向上を図る観点から、電子申告の運用が本年6月より大阪国税局においても開始されることになりました。

また、在るべき税制の構築に向けた本格的な議論にも見られますように、国民の税に対する関心はますます高まっており、適正・公平な税務行政が一層求められております。

このような中で、税務行政の運営に当たっては、申告納税制度が円滑に機能するよう「適正・公平な課税の実現」と「期限内収納の確保」

を図るため、行政の透明性・効率性を確保しながら、時代の変化と要請に対応してまいりたいと考えております。

その一つとしまして、より一層の納税者サービスを図るために和歌山署では平成十五年分確定申告期の2月22日と29日の日曜日に限り確定申告の相談・申告書の受付を行います。

また、引き続き「自書申告」のより一層の定着に努めてまいりたいと考えておりますので、近畿税理士会和歌山支部の皆様方におかれましては、税の専門家として、また税務行政の良き理解者として今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、新しい年が近畿税理士会和歌山支部のますますのご発展と、会員の先生方もとよりご家族ともどものご健勝、ご多幸の年であることを心から祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。



六回目の年男

米 田 弘

私の生まれは昭和七年、壬申（じんしん、またはみずのえさる）の年、十干十二支の組み合わせで六十一年目にめぐってくるその壬申の年に生まれた。それから早や六回目の壬申（甲申の年）

壬申の年は、日本古代史上名高い壬申の乱（西暦六七二年）で知られる様に波乱の多い年と言われている。以来申年のなかでも壬申の年は、何か重苦しい年まわりらしい。

昭和史を紐解けば、五・一五事件は、昭和七

年五月十五日に起こっている。戦争の機運が漂い、テロが続発した年であつたらしい。何だか今年の申年も似た様な年か？テロの多発も予想される。戦争だけは、無くしてほしい。

体の弱かった私は、五歳になった直後父が戦死。戦中、戦後の混乱の中、母一人の手で育てられたが、その母も、私が三十九歳の時に他界した。

翌年、税理士としてこの業界に入れて頂き、以来三十年余、大過なく（？）六回目の年男を迎えられたことは、何か不思議な気持ちです。作家の五木寛之さん（この先生も昭和七年生まれ）の「他力」によると、懸命に努力をしていると、何か不思議な力が何処からか伝わって助けてくれる、ということを実感しています。

五回目の申年（二回目の壬申の年）に遅ればせながら初孫に恵まれ、古希を無事に過ごし、またまた年男を迎え、なんとか元気に仕事に精を出せる、有難やアリガタヤの心境の毎日です。

昨年五月まで、支部長を務めさせて頂いた二年間は、支部会員の皆様には、種々ご協力を頂いたことに、この欄をお借りしてお礼申し上げ、年男の弁を終わります。

還暦に当時の ニュースを読む

淡 路 満

私の生まれた、1944年3月4日、この日は土曜日であり、当時の毎日新聞記事によると・・・「敵戦艦11隻撃沈」「日本近海などで戦果」と大きな見出しでの記事が書かれています。

さらに補給輸送は、戦力の動脈であり、この動脈は戦争遂行にあくまで旺盛、戦力を保持されなくてはならない。太平洋の反攻に躍起の敵米（アメリカ）は、わが本土と南方地域の補給通路を脅かし、戦争

資源の輸送を妨害し、わが戦力の増強を阻み、また、わが海洋最前線への補給路を混乱し、前線の戦力を弱体化せしめんとする企画を下に、日本近海その他わが作戦海域に潜水艦を騒動せしめているが、わが陸海軍航空部隊並びに艦艇は力を合わせて敵潜水艦の撃滅に常時絶大な努力を傾注して多大の戦果をあげている。

一方で、空地はあまさず南京栽培を奨励し、徹底して食料作物の栽培に動員するよう呼びかけ、利用対象なる土地は、庭園、公園、運動場、学校校庭、工場敷地、工場周辺空地、河川敷、堤防、競馬場、ゴルフ場、道路側等全ての空地を利用すること奨励し、南京栽培の特性を活用するよう、また、軒先、屋根、立木等を利用せる立体的栽培を計るものとす。さらに疎開は強力に手早くとの記事もあります。

又、社告には、戦局の緊迫に伴い新聞用紙の消費も最大限に節約し、もって戦力並びに軍需輸送力の増強に強力すべき時であります。従って、本社は今回の政府決定による決戦非常措置要領に即応するとともに、併せて配給労務の節減に期するため、日本新聞会の決定に基づき夕刊の発行を休止することも伝えている。

当時日本はいかに物資が不足していたか、しかも緊迫している状態が詳細に読みとれる記事でもあります。

1944年(昭和19年)は太平洋戦争の真っ只中にあり、翌年1945年8月(昭和20年)の終戦を1年後にひかえた年でもあります。

国民は、この新聞報道により日本は間もなく米国に勝利し、生活が楽になることを信じていたのだろうか?あるいは、この戦争はアメリカをはじめとする連合軍に負け日本はアメリカの植民地化となるのか、又、国民は生活に追われ、そこまで考える余裕すらなかったのか、今思うと定かではありませんが、父母から肌で感じたことは、それより食べることへの執着が一番強かったように思います。

今と違って食料はほとんど配給で、足りない分は他人に分けてもらうか、自家栽培により調達するし

か手段はありません。

子供心に、人が来訪するとご馳走がでたりで、誰か家に来ることをいつも願っていたような気がします。

さて、現在はどうか?

「還暦年男雑感」

森 本 好 典

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

私は今年で5回目の年男を数え、ついに還暦を迎えるに至りました。孫もいない、寺社巡りにもあまり興味を示さない、お酒とゴルフが大好きな還暦じいさんとなる訳であります。還暦を迎えるということは、暦に還り人生の新しい出発点に立つということですから、0才に還ってこれからの人生をどのように有意義に生きていったら良いのかを考えてみたいと思います。私の場合、納得のゆく人生は多分望めないかもしれませんが、幸せな人生だったと思える生き方を模索してゆきたいと思っています。

それには、まず第一に「健康」であることです。

私は5年前に突然、心筋梗塞に見まわれました。ゴルフの帰り、あるスナックでマイク片手にへたな歌を歌っていた最中に発症しました。その時は一瞬何が起こったのか自分ではよく解らなかったのですが、医師が一緒だったので適切な処置のおかげで一命をとりとめました。それ以来、何事にも体調と相談しながら行動をするよう心掛けています。

第二は、「楽しく仕事」をすることだと思っています。つまり、いやなことではできるだけしないということです。私は昭和45年から税理士業界でお世話になっておりますが、ちょうど

日本の経済も輝き、税理士業界も隆盛をきわめていた大変幸せな時代に、この業界に身を置くことが出来ました。

21世紀に入りグローバル化の中での競争時代に楽しく仕事など、何と贅沢と言われるかも知れませんが・・・もう30年超も仕事をしてきたのですから・・・とっております。

第三は、「好きなことを見つける」ことだと思います。私の場合は、寂しい限りですが今はゴルフしかありません。しかしゴルフもあと何年できるかわかりません。子供達は横浜と大阪でそれぞれ暮らしており、今私は家内と2人暮らしです。多分これからもずっと2人暮らしかもしれません。家内は子供の頃から油絵をやっているの、絵の仲間がたくさんいます。土曜・日曜と私がほとんどゴルフに出掛けるので、むしろ世話のかかる人間がいなくなるので絵作業がはかどると喜んでおります。つまり家内は1人で十分生きてゆける人間であります。

先日、友人から一冊の本をプレゼントされました。スキーヤーの三浦雄一郎氏のお父上、三浦敬三氏の「98才元気の秘密」という本です。その本の中で好きなことをするための健康という考え方、逆に言えば好きなことがあればいつまでも健康でいられるという内容のことを書いておられました。

還暦を迎え、これから何か夢中になれる好きなことを見つけられるかが私の今後の人生を豊にする最大の課題だと考えております。

最後に、会員の皆様のご多幸とご健康をお祈りし、私の好きなサミュエル・ウルフマンの詩をご紹介します「還暦年男雑感」といたします。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ

人は年を重ねるだけでは老いない

人は信念と共に若く

人は自信と共に若く

人は希望ある限り若く

理想を失う時、初めて老いがくる

太陽半径

岡本 繁 男

新年おめでとうございます。新年と言えば初日の出です。そこで太陽について考えました。理科年表によると太陽の赤道半径（以下単に半径とする）は696,000 kmとなっている。これは太陽半径の長さである。太陽半径の持つ力で見ると707,000 kmである。三角関数の $\sin(\cos)45^\circ=0.707$ 。

$$0.707 \times 1,000,000 = 707,000$$

太陽半径707,000kmは実効値である。

太陽の密度=1.41。707,000×1.41≒1,000,000km（最大値）。最大値は長さでなく太陽の力のことである。

理科年表で見ると、天王星の半径=25,400 km、海王星の半径=25,110 km。

$$\sqrt{25,400 \times 25,110} = 25,250 \text{ km}$$

太陽の重力=28（地球の重力=1）。

707,000÷28=25,250 kmとなり、天王星と海王星の平均半径と合っている。

48歳「年男」のマニアック健康法

川口 昌 紀

何年か前に厄年が終わってほっとしたときに、男性の場合は厄年と言われる41歳から43歳よりも40代後半から50代前半の方が何かと不具合が多いよ、と誰かに脅かされた記憶があります。昔と比べ平均寿命が延びたため、人生の転換期も先送りされているのかもしれませんが。というわけで

今まで健康維持には割合に無頓着であったのですが、次第に興味を持つようになってまいりました。健康維持というとスポーツが思い浮かびますが、週1回程度の激しい運動はかえって体にはよくないともいわれています。小生はテニスが趣味ですが、毎週土日はテニス、という訳にはなかなかいかず、週1回の壁をこえることができません。そこで最近健康増進のために始めたことがいくつかあります。

まず1つめは、就寝前のストレッチ（腹筋・背筋運動）です。これはあまり楽しくなく長続きしないように思われるかもしれませんが、体重と体脂肪率の数値目標を決めて行くと励みになってもう半年近くも続いています。2つめは食生活の改善です。もともと大食漢でつい食べ過ぎてしまいますので、米飯のかわりにブロッコリーなどの野菜を摂取したり、夜10時以降は食べ物を口に入れない（空腹のときは、野菜ジュースでがまんします）、油ものはなるべく避けるとともに、塩、醤油、ドレッシング等の調味料は極力使わない、といったことを習慣づけています。これも先ほどの数値目標があると励みになって長続きしています。3つ目は冷水浴で、温→冷→温→冷と、各2回繰り返します。これは血行をよくし、体内の老廃物を排出するとともに、自律神経を強化する効果があるそうです。

これ以外にも、近距離はなるべく車を使わず徒歩か自転車で行くこと、なるべく階段を使いエスカレーターは止まらずに歩くこと、週1回はテニスで汗を流すこと、等々で健康増進を心がけています。

しかしながら、いちばん大切なのは、心の健康ではないでしょうか。いま日本は過去の幸せな時代が終焉し、不況、リストラ、教育崩壊、さらには戦争不安など、大変難しい時代になって国民のストレスもたま一方です。わが業界もご多分にもれず、放っておくと関与先が倒産・廃業で減ってゆき、油断していると安売りの記帳代行会社に

関与先を奪われるのですから大変です。今まで以上にがんばらねば、と思いますが同時にある種の達観もまた必要かと思ったりもします。幸いなことに、私たち税理士は国家資格を持った自由職業人として、自身の良心と信念に従って物事を決めることができます。この恵まれた立場と自分を支えてくれる周りの人たちに感謝しつつ精進することこそが心の健康を保つ最大の健康増進法では、と人生の第5周目を迎えるにあたって考える今日このごろであります。



申年生まれの方は17名です。
年代順は

	男性	女性	計
大正9年生	2名	—	2名
昭和7年生	3名	1名	4名
昭和19年生	9名	1名	10名
昭和31年生	1名	—	1名
計	15名	2名	17名





支部行事風景



支部親睦旅行／H15.10.16



資産税研究会／H15.10.30



税を知る週間無料税務相談／H15.11.13・14



年末調整説明会／H15.12.3



税務研修会／H15.12.12



年末懇親会／H15.12.12



新入会員等紹介 (敬称略)

入 会



ヨシカワ ユウジ
吉川 貢士 (転入)
平成15年9月17日
和歌山市西仲間町 2-15
和歌山第一ビル 302



カトウ タクミ
加藤 匠 (入会)
平成15年12月17日
和歌山市北町26
服部潔税理士事務所内



サカモト トモヒコ
坂本 智彦 (入会)
平成15年10月16日
和歌山市東蔵前丁12

転 出

サカグチ カズヨ
坂口 和代 (岸和田) 平成15年9月16日

ナクラ ケンゾウ
名倉 健三 (御坊) 平成15年10月29日



タカハラ トシユキ
高原 稔征 (入会)
平成15年10月16日
和歌山市黒田 105-5
森本芳宣事務所

退 会

ミヤタ ノリオ
宮田 紀雄 (死亡) 平成15年9月18日



フジハラ ミツオ
藤原 光男 (入会)
平成15年10月16日
和歌山市弘西 525-1

会員報告

会員数 平成16年1月1日現在 242名 (社)

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 編 集 後 記 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

時の流れにしるしはないというものにあえて
暦というしるしをもうけて、心機一転をはかる
ところに昔から人々の知恵があったようです。

年があらたまったというだけで気分一新、昨
日と同じ出来事にも違った気持ちがあります。何
をするにも初をつける。初場所、初夢、書き初
め、あるいは始めをつけて仕事始め、けいこ始
めなど。

心を新たにしてみずみずしい年を迎え、今年

もより充実した一年になることを期待したいと
思います。

「五十五万石」第17号を発行するに当たって多
くの方々からご投稿いただきありがとうございます
ました

本年が皆様方にとって良い年でありますよう
お祈り申し上げます。

広報委員 北 岡野 小西